

台湾の舞踊教育に関する研究

—普通クラスとダンス専攻クラスを
中心として—

富 燦 霞

【研究目的】

本研究は、第1に小中高校における普通クラスの舞踊教育に関して、文部省学習指導要領の内容と現場教育の実態を中心に、台湾における舞踊教育の変遷、特性、現状及び問題点を考察する。第2に小中高校のダンス専攻クラスの発展過程、指導要領における教育内容を分析し、特性及び今後の課題を明らかにする。

【研究方法】

- ①台湾に中華民国政府が移駐した後(1948)から現在までの文部省指導要領の内容を分析し考察する。
- ②先行研究「学校における舞踊教育の日韓比較研究」(玄悌楨, お茶の水女子大学1989年度修士論文)の調査票を修正した修正アンケートを用いて、台湾の舞踊教育の現状調査(調査1, 2)を行い、実態を明らかにする。
- ③台湾のダンス専攻クラスの指導要領の内容を分析し考察する。④ダンス専攻クラス担当教師に現状についてのインタビューを行う。

【結果及び考察】

1. 台湾の舞踊教育の概要

台湾の小中高校における舞踊教育の種類は普通クラスとダンス専攻クラスの2つに分けられる。普通クラスは体育教科に行われるダンス授業。ダンス専攻クラスはダンサー養成を目的とする専門的なダンス授業であり、小学校3年生から高校3年生までを対象にして実施されている。舞踊教員養成について、台湾の教員資格の取得制度は師範大学に限定して実施されている。師範大学では舞踊学科が設立されていないため、普通学校においてダンスを指導するのは体育教師である。一般大学に設けられている舞踊学科の卒業生はそのまま正式な教員になれない。

2. 普通クラスにおけるダンス教育の歴史の変遷—

戦後からの変遷は3期に分けることができる。第1期(1948~1961)は軍事訓練の意味合いを含めた身体訓練及び既成作品の内容の時期であった。第2期(1962~1982)は全人的な教育が目標となり、ダンス領域名は「韻律活動」から「舞蹈」に改称し、小中高校は中国舞踊を始め、多様なダンス種目を楽しむ方針へと変わり、さらに創作ダンス、モダンダンスの内容は最初に高校に、徐々に中学校、小学校へと取り入れられるようになり、改訂と共に小中高の内容の一貫性が図られるよう

になった。第3期(1983~現在)は生涯にわたってスポーツを楽しむ習慣を培う審美的能力・創造力を養うことが強調され、選択制が大幅に取り入れられた。中高校のダンス内容は基本テクニックと創作ダンスの2本柱となり、選択として鑑賞を含めた舞踊理論が設けられた。

3. 台湾の普通クラスにおけるダンス教育の現状

①調査目的及び方法

台湾の大学生の小中高校におけるダンス授業経験と舞踊に対する意識及び学校におけるダンス指導の現状を調査することを目的とする。調査1—台北市内大学生(105人, 回収率98%)を対象にし、小中高でのダンス経験及びダンスに対する意識について、1992年8~9月にアンケート調査を行なった。調査2—全台湾省の体育教師(小中高240校の151名, 回収率20.4%)を対象にし、直接訪問及び郵送法によって上記と同じ期間にアンケート調査を行なった。

②台湾の普通クラスにおけるダンス教育の現状

(1)大学生のダンス授業経験とダンスに対する意識
学校で学習したダンス種目については小中高ともに多様な種目が実施されているが、実施率はかなり低いことがわかった(小中高を合わせて33.9%が最高)。しかし多様なダンスに対する意識が高いことが明らかになった(最高35.9%, 最低11.6%)。

(2)体育教師の指導実態

ダンス指導実態について、全体としては低い指導率が示された(フォークダンス58.9%, それ以外は全て40%以下)。また、創作ダンスの指導率もかなり低く、小中高において継続的に指導されていないことがわかり、教師が創作ダンスに対する認識が曖昧であり、ダンスの指導意欲が低いなどのことが読み取れる。

4. 台湾のダンス専攻クラスにおけるダンス教育

①ダンス専攻クラスの創立及び現状

ダンス専攻クラスはプロの舞踊家養成を目標にして、1981年に小・中学校に設置され、高校には1984年に設置された。現在小学校14校、中学校12校、高校6校に設置されている。1校1学級で定員は30人以内とされている。

②ダンス専攻クラスの指導要領における教育内容

ダンス専攻クラスの教育内容は普通クラスと同様に指導要領によって指定されている。その内容は小中高共通して(1)即興と創作(2)モダンダンス(3)中国舞踊(4)バレエから構成されている。この他高校では(5)舞踊音楽(6)芸術鑑賞(7)舞台実習と制作などが必修内容になっている。小中では学校選択で(5)舞踊音楽(6)芸術鑑賞を取り入れてもよいことになっている。

③ダンス専攻クラスの問題点

ダンス専攻クラスの教育内容及び指導体制の連

携が小中高校間で保たれていないことが、現状の問題点である。具体的には次のようなことである(1)カリキュラムの問題(2)試験方法不統一(3)進学の問題(4)指導法の系統化の問題(5)教員研修機会の不備(6)行政・運営の未組織。以上にあげた問題を解決するためにはダンス専攻クラスの一貫性を図る独立した運営組織などが必要である。

【結論】

本研究でみてきた台湾の舞踊教育の現状をふまえて、今後の課題を明らかにしたい。

1. ダンス教育と舞踊教員養成制度の確立

ダンス教育の実態調査によると、ダンス指導の実施率及び教師の指導意欲が低いという結果が出たが、このことは教員養成制度の問題と深い関係があると思われる。ダンス専攻クラスの教員についても同様に、教員養成制度の確立によって、教員の質を高める必要がある。従って、舞踊教員養成制度の確立は台湾の舞踊教育において大きな課題の一つと考えられる。具体的には次の四つを改善点としてあげられる。①師範大学・学院に舞踊学科の設立、または体育学科に舞踊教育専攻コースを設立する。②各舞踊学科に教職単位取得制度を開放する。③特殊教育単位のカリキュラムを再検討する。④教師のためのダンス講習会を定期的に行なう。

2. ダンス専攻クラスの今後の課題

ダンス専攻クラスの現状を考察した結果、次のような今後の課題が明らかになった。

- ①舞踊教員養成制度を設立する。
- ②ダンス専攻クラスの運営を統括する専門委員会が必要である。
- ③小中高のダンス専攻クラスの運営を一貫する。
- ④舞踊専攻学生定員の適正な比率及び卒業後の進路の拡大を検討する。

まとめ

舞踊教育において、台湾はダンス専攻クラスが大いに発展し、舞踊芸術に対して国民全体の関心を高めた功績を顕著に見られる一方で、普通クラスにおけるダンス教育が重視されていない現状にある。今後の台湾における舞踊教育の問題は、ダンス専攻クラスと同様に、今まで軽視されていた普通クラスを充実させることであり、児童・生徒達により多くのダンスの機会を与えることが大切であると思われる。

{主要参考文献}

- ①教育部國民教育司，國民小學（1961/3月，12月，1962，1975）國民中學（1962，1967，1968，1972，1983）高級中學（1962，1971，1983）課程標準②教育部國民教育司，國民小學舞蹈教育班評鑑報告書（1989）③片岡康子「舞踊学講義」大修館書店出版（1991）④玄橋禎「学校における舞踊教育の日韓比較研究」お茶の水女子大学1989年度修士論文⑤陳碧涵「台湾と日本における舞踊教育比較」筑波大学1988年度修士論文⑥邱淑鈴「アメ

リカのパフォーマンスアート専門高校の調査研究：台湾におけるカリキュラム改革のための示唆」アジア国際舞踊会議JADE'93論文集所収（1993）⑦富樫霞「台湾の舞踊教育に関する研究」お茶の水女子大学1993年度修士論文